

## 抗菌薬適正使用の科学的根拠

木津 純子

## Evidence for Appropriate Use of Antibacterial Agents

Junko KIZU

Department of Practical Pharmacy, Kyoritsu University of Pharmacy,  
1-5-30 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo 105-8512, Japan

多くの抗菌薬が種々の感染症治療に用いられているが、耐性菌出現の抑制、感染症治療の効率化、さらには、安全性の向上などを目的として、抗菌薬の適正使用が重要視されている。薬剤師は、個々の感染症治療の場において、抗菌薬の性質、体内動態、副作用、薬物相互作用などに関する情報を提供し、より効果的かつ安全な治療法に寄与することが重要である。本誌上シンポジウムでは、薬剤師が抗菌薬の適正使用を推進する上で必須となる、最新の具体的な科学的根拠についてご提示頂く。

北里大学病院薬剤部の国分秀也先生からは、抗菌薬の TDM からみた適正な使用方法に関する情報をご提示頂く。特に、北里大学病院薬剤部 TDM 部門で蓄積された、具体的なグリコペプチド系抗菌薬やアミノ配糖体系抗菌薬の TDM データの再解析を行

い、新生児や腎不全患者など今まで情報が少なかった特殊な母集団を対象とした抗菌薬の用法・用量設定法について解説頂く。

また、抗菌薬の用法・用量は、従来経験に基づいて決定されることが多かったが、この用法・用量を科学的に設定することが求められてきている。東京慈恵会医科大学薬理学講座の堀 誠治先生からは、抗菌薬体内動態パラメータ (PK パラメータ) と抗菌薬の有する抗菌作用パラメータ (PD パラメータ) との組み合わせに基づく、PK/PD 解析からみた効果的かつ安全な抗菌薬の適正使用について具体的にご提示頂く。

本シンポジウムの情報が、臨床現場における抗菌薬の適正使用に大きく貢献することを期待している。